



薬の伝言板 ～貼り薬～

No.274 2020年9月

丸子中央病院 薬局

みなさんは貼り薬と聞くと、湿布をイメージされる方が多いのではないのでしょうか？誰もが一度は使ったことがあるであろう「貼り薬」。実は湿布だけではなく、喘息や狭心症などのお薬でも貼るタイプのもがあります。

貼り薬には薬の効き方によって大きく分けて2つの種類があります。



◆局所で作用をするもの

すなわち「貼った部分で治療効果を示す」タイプの貼り薬です。一般に肌色の薄い貼り薬を「テープ剤」、白くて厚みのある貼り薬を「パップ剤」といいます。痛み止めの貼り薬がこれに該当します。※（）内は有効成分の一般的な名称です。

○テープ剤



薄いシート状の貼り薬で、比較的粘着力が強いです。

- 肌色のものが多く、貼った部分がわかりにくいです。
- 伸縮性があるため、ひじや膝などよく動かす関節部分に適しています。
- 貼ったときに冷たさや温かさはあまり感じません。
- 粘着力が強いため、肌が弱い方には適さない場合があります。

例)

- ・ロキソニンテープ
(ロキソプロフェンナトリウム)
- ・モーラステープ(ケトプロフェン)
- ・ロコアテープ(エスフルルビプロフェン)

○パップ剤



水分を含んだ粘着部分がある厚みのある貼り薬です。

- 粘着力がマイルドで、貼り付け面がくっついた時に貼りなおしやすいです。
- 貼った時に冷たさや温かさを感じます。好みに合わせて使用できます。
- 貼り付け面が水分を含んでいるため、はがすときに皮膚を刺激しにくいです。
- よく動かす箇所(指先や関節など)に貼るとはがれやすいです。

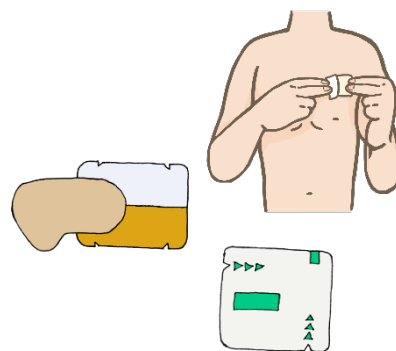
例)

- ・MS冷シップ(サリチル酸メチル)
- ・MS温シップ(サリチル酸メチル)
- ・フルルバンパップ(フルルビプロフェン)
- ・セルタッチパップ(フェルビナク)

◆全身で作用するもの

一方こちらは、薬を貼った部分の皮膚から吸収されたあとに血管へ移行し、血流に乗って全身をめぐることで効果を発揮します。こちらのタイプの貼り薬は「経皮吸収型製剤」と呼ばれることもあります。喘息や狭心症などの貼り薬がこれに該当します。

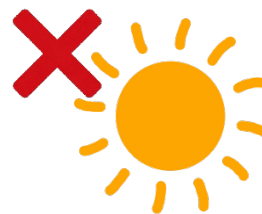
- 例) ニトロダーム TTS (ニトログリセリン) : 狭心症の薬
フランドルテープ (硝酸イソソルビド) : 狭心症の薬
ニュープロパッチ (ロチゴチン) : パーキンソン病の薬
ビソノテープ (ビソプロロール) : 血圧の薬
ホクナリンテープ (ツロブテロール) : 喘息の薬
リバスタッチパッチ (リバスチグミン) : 認知症の薬



貼り薬の Q&A

1) 貼った部分に日の光をあてちゃいけないテープ剤があるって聞いたのですが…

→ モーラステープ (ケトプロフェン) は紫外線と反応し、皮膚炎を起こすことが知られています。貼っている時はもちろんですが、**はがしてからも4週間**は日の光を当てないように注意してください。



2) 湿布はかゆくならなければずっと貼っていてもいいの？

→ 1日1枚貼るタイプであれば、8時間~12時間ほど貼れば、はがした後も効果が持続します。ずっと貼り続けた後に、すぐ同じ場所に新しいものを貼り替えてしまうと、普段かぶれない人でもかぶれてしまう場合があります。肌の様子を見ながら使用しましょう。

3) 喘息や狭心症の貼り薬は胸に貼らなければいけませんか？

→ 薬の種類によりますが、胸だけでなく、背中や上腕 (肩からひじまでの部分) にも貼れます。同じ場所に繰り返し貼り続けるとかぶれてしまうので、**貼りかえるたびに場所を少しズラす**ことを心がけましょう。詳しくは薬剤師までお問い合わせください。

